

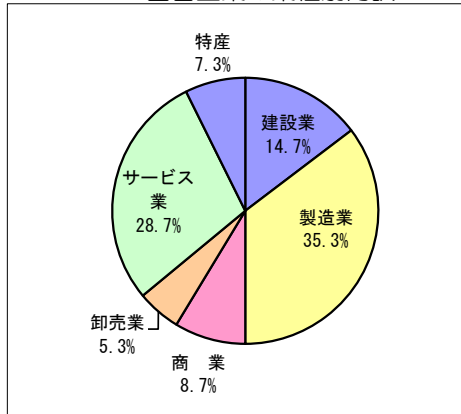
小野商工会議所会員事業所 景気調査（2020年第3四半期）集計結果

2020年10月31日

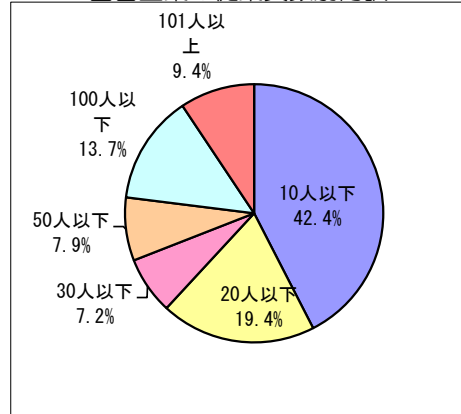
アンケート回答企業数 150社 （アンケート送付数 215社）
 回収率 69.8%

調査対象期間 2020年7月～9月
 比較対象期間 前年同期 2019年7月～9月
 前期 2020年4月～6月
 来期 2020年10月～12月

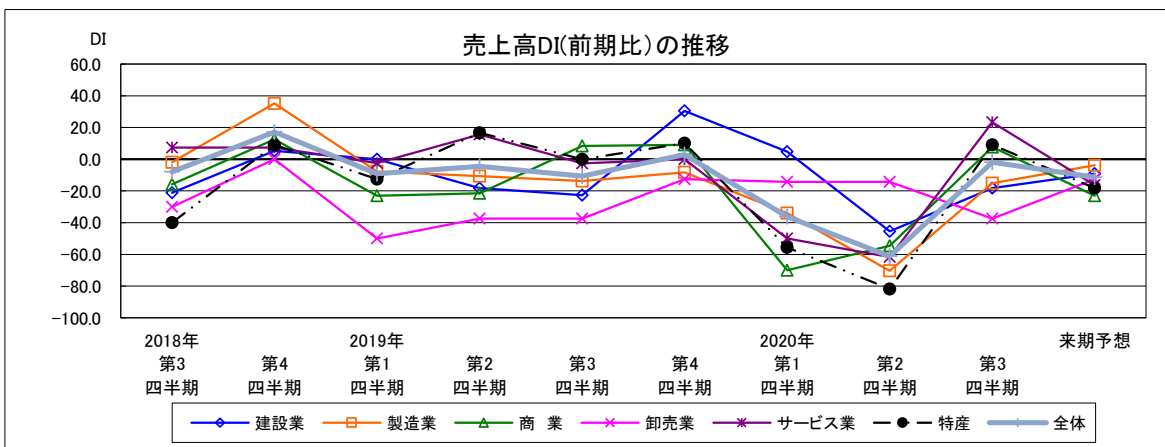
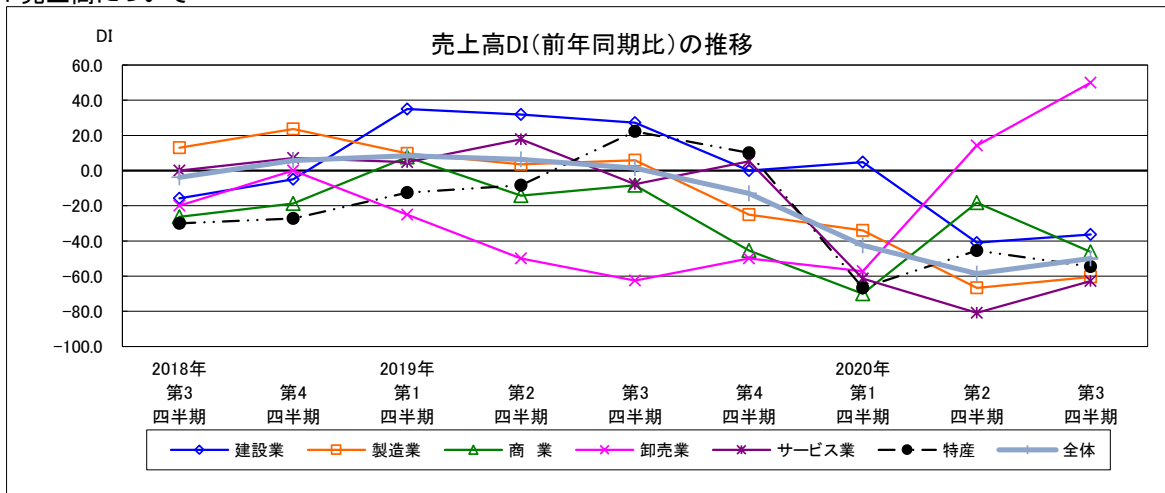
回答企業の業種別内訳



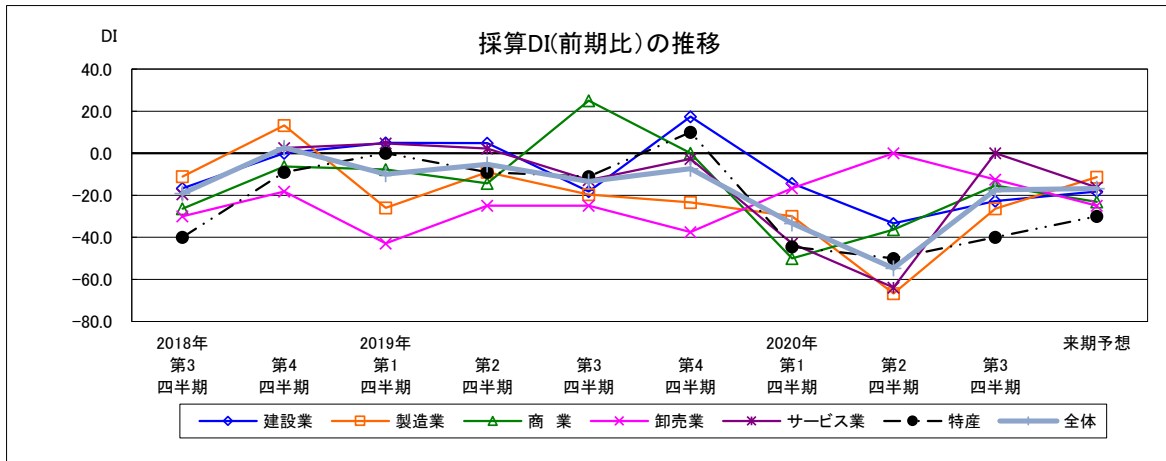
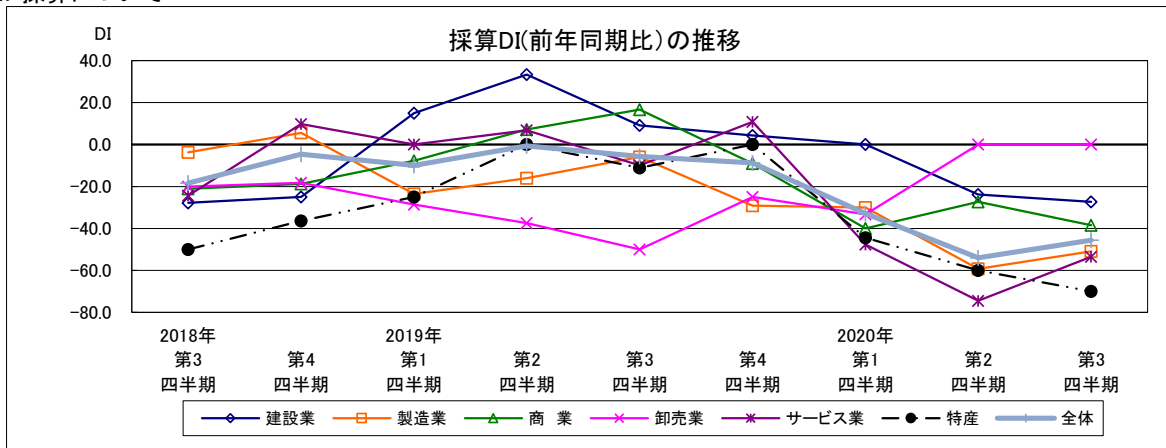
回答企業の従業員数別内訳



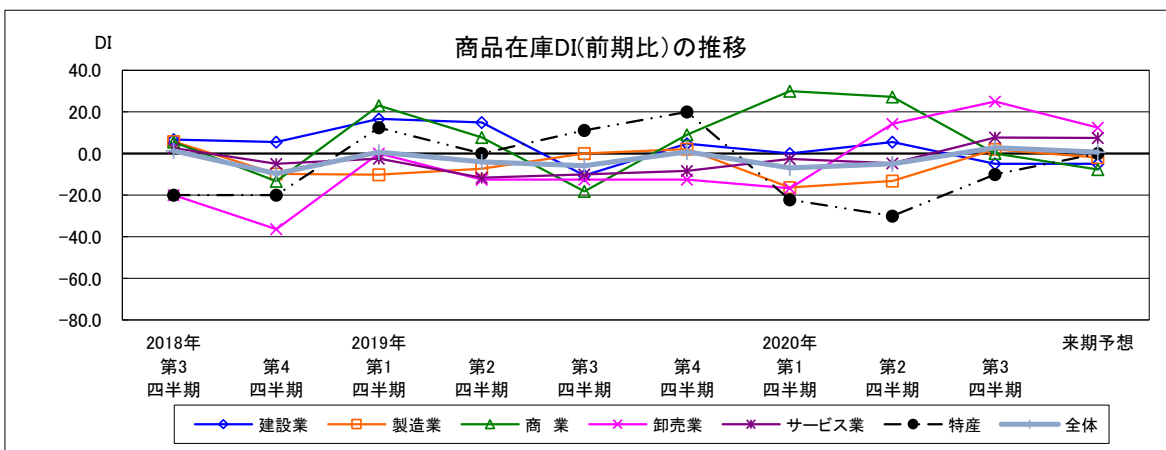
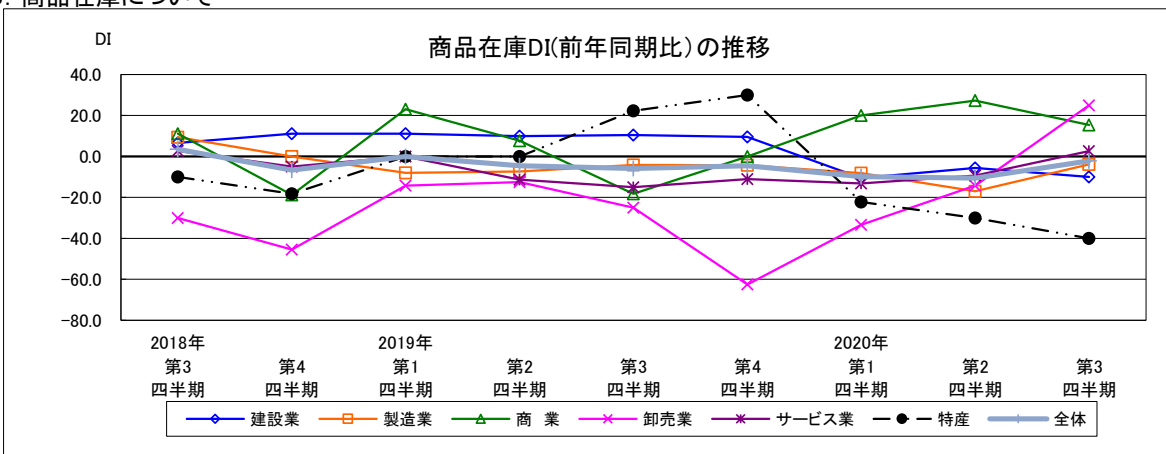
1. 売上高について



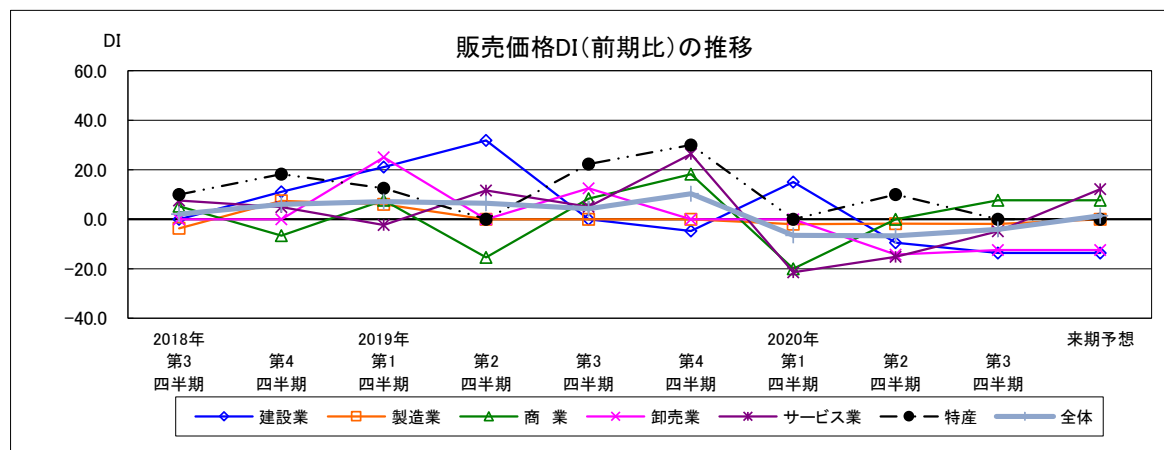
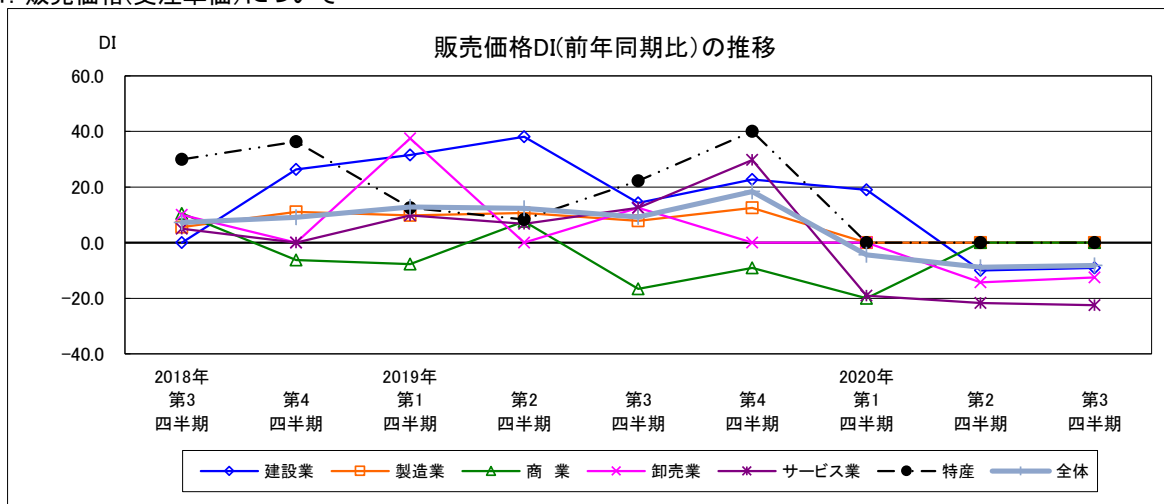
2. 採算について



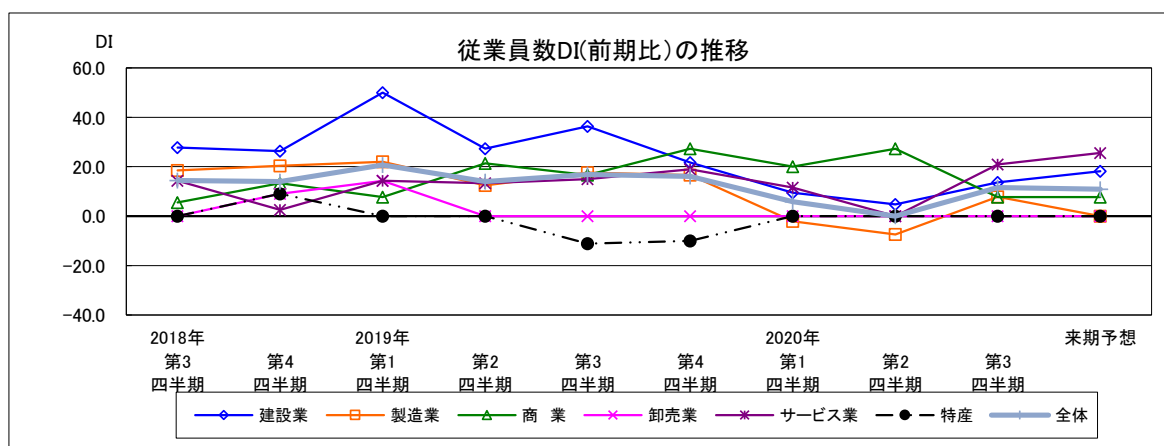
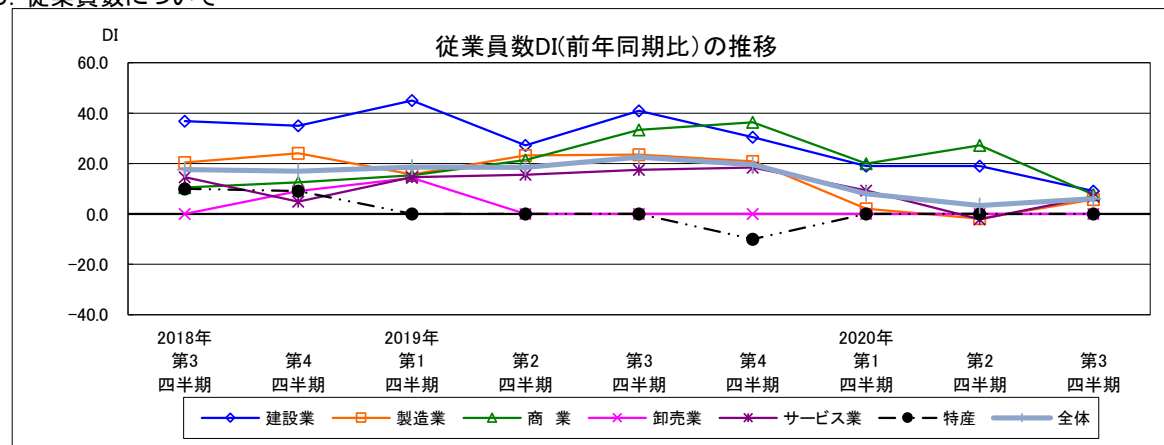
3. 商品在庫について



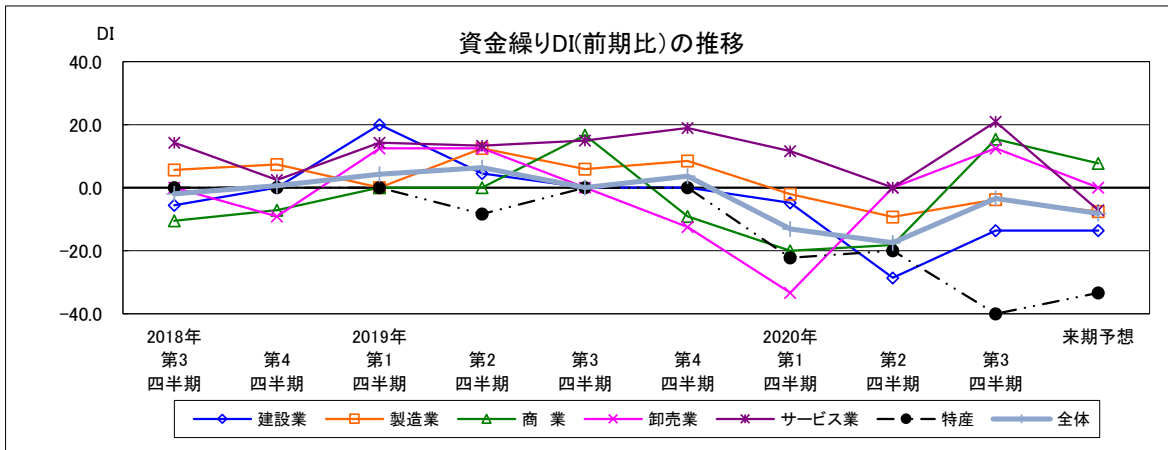
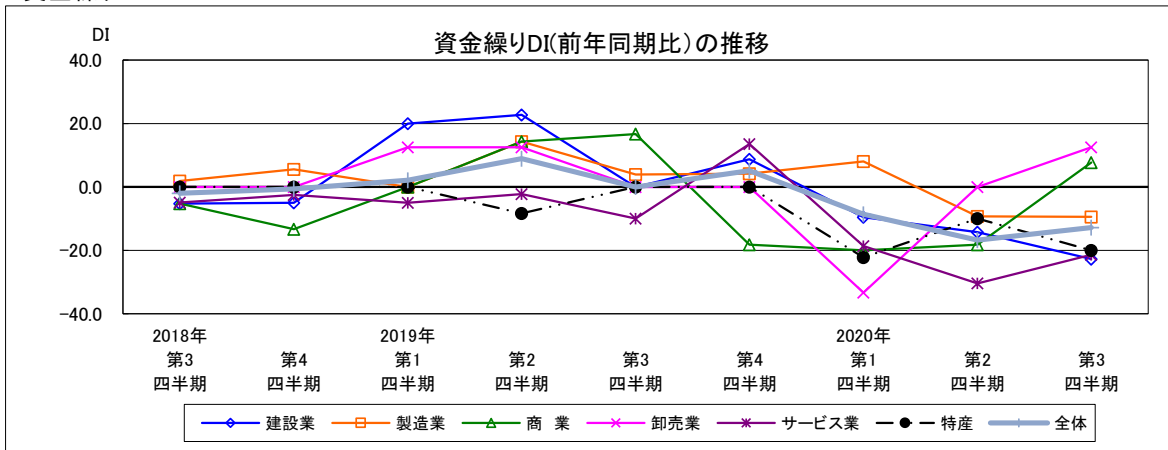
4. 販売価格(受注単価)について



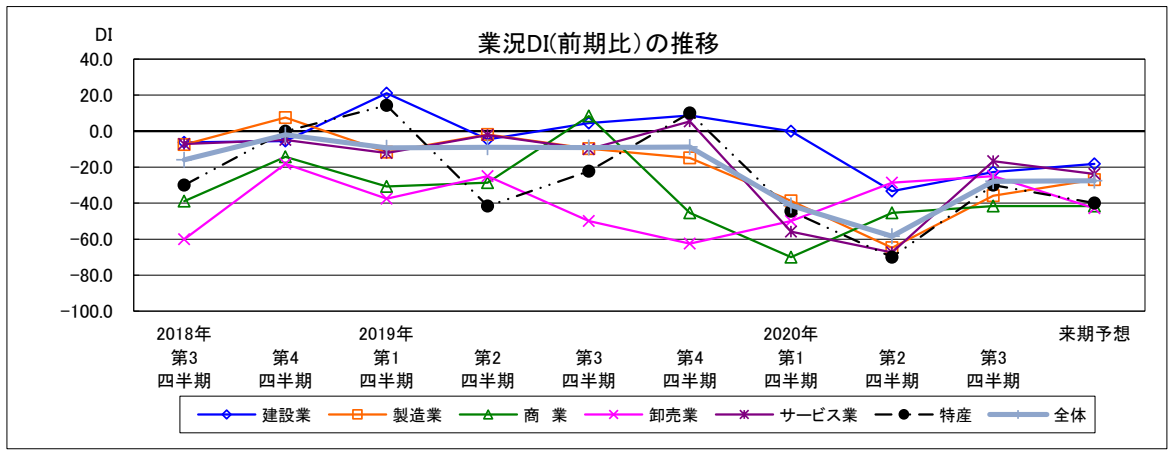
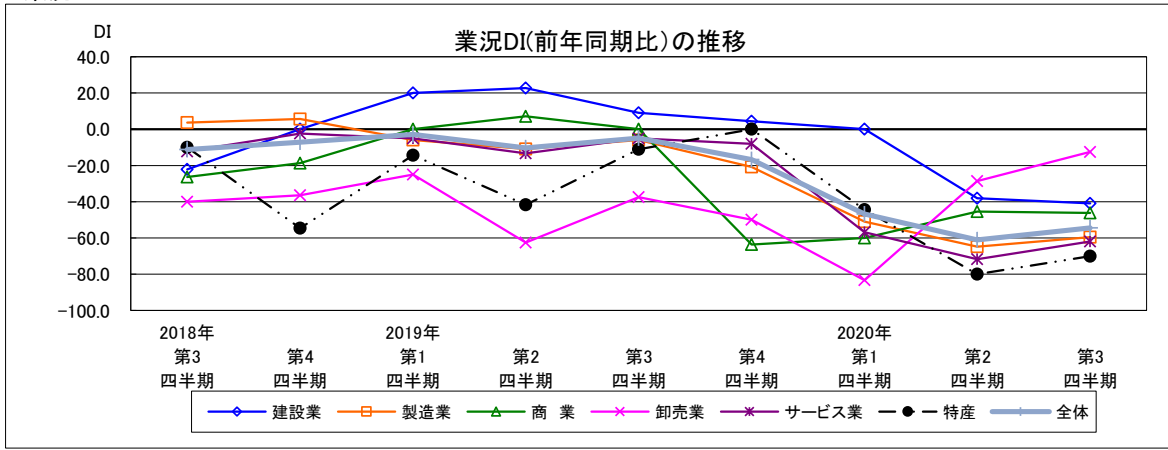
5. 従業員数について



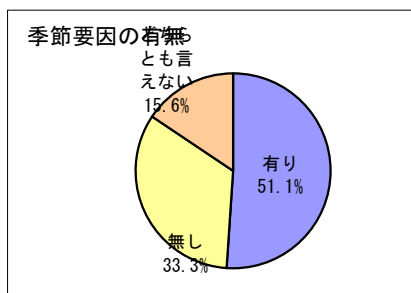
6. 資金繰りについて



7. 業況について



1～7の項目について季節要因による変動はありますか。



8. 以下は、頂いたコメントの一部を紹介しています。

○建設業

- ・新型コロナウイルスの影響が少なくなっている。公共工事に関して今年度は計画通りと思われるが、来年度について予算等の減少も可能性が大きく、不安要素が多い。
- ・コロナの影響でハウスメーカーの2月・3月の契約減の影響が9月から出ている。7月・8月の売上げは昨年と変わりなし。9月～11月が減少予定。
- ・官公庁工事は順調であるが、民間の設備投資が鈍化傾向にあります。
- ・コロナ禍により公共事業の発注が減少していることですが、年度末までに減少分を残り5ヶ月余りで補填するのは難しいと考える。

○製造業

- ・新型コロナウイルスの影響で、外食産業の低迷により保有米がかなり余っていることから米価に影響がでてくる。当然、農家の購買欲（農機具）がなくなり、その影響がでてくるのではないかと懸念しています。
- ・動きが鈍化してきている。新型コロナウイルスの影響でものづくりもあまり芳しくないのかもしれない。
- ・今は耐える時期だと思って我慢しています。社員の教育期間と考えております。
- ・コロナ禍の影響大。先行きの見通しが読めず。
- ・全体的に悪くなってきている。
- ・9月以降は回復に向かっておりますが、依然先行きは不透明な状況にあるかと思えます。
- ・受注傾向はコロナ禍ではありますが、少しずつ上昇傾向です。
- ・メインの取引先から納期バックを要請されるので、売上が伸びない。（1ヶ月の予算を組んで予算内の検収金額しか納品できないので在庫品となってしまいます）コンスタントに注文をいただいている取引先もあります。

○商業

- ・天候異変や台風のため商品の高値が続き、コロナに加え売上げが一段と落ちています。
- ・コロナ禍の影響でイベント・行事等が全く無いため売上げが伸びない。
- ・2019年7～9月は、消費税増税を見越して駆け込み需要があった。

○卸売

- ・新型コロナウイルスの影響を徐々に受けている様に思われる。
- ・従来の中心的な卸屋、量販店、ホームセンターの販売力が減少気味になった。そこで、ネット通販を手掛けたところ、最初の7年くらいは大したことが無かったが、ここ数年客数が増え、1日平均150～200人になった。
- ・コロナ禍の現状がどこまで続くかが、今後かなり影響を与えたいと思います。メディア等で言われているサービス業以外の業種においても悪影響が表れてきています。

○サービス

- ・コロナによって下降が直面。来年はコロナが落ち着くことを願っています。
- ・この夏は猛暑と在宅比率増で売上が上がったが、秋になり一般家庭において出費を控える傾向が出てきている感じがする。年末に向けて売上が確保できるのか心配になる。
- ・コロナの影響で定期便がなくなって再開する兆しが見えないため、解雇せざるを得ない状況がやってきている。補償ばかり続けられない。
- ・来客数はおおむね3/4くらい。
- ・各機関等の助成により受注傾向が上向きにいたる。Go Toイート、トラベル等の助成が終了した後がどうなるのか心配する。
- ・消費税増税とコロナ禍という2つの「人災」による景況悪化懸念。

○特産

- ・毎年10月20日ぐらいから注文がくるが、今年はイベントやデパート販売がなく、ネット販売は良かったが、8～9月が減少した。
- ・受注の減少と先行きの不透明感が不安です。